

主な出来事

【内政】

- マシシ副大統領, ボツワナ大学学長に就任
- カーマ大統領, ボツワナ農業自然資源大学の学長に就任
- 新党「革新連合」の誕生

【外政】

- カーマ大統領, マルタ共和国を訪問
- ボツワナ, スペイン・カタルーニャにおける片務的独立宣言を非難
- ボツワナ政府, ソマリアにおけるテロ攻撃を非難
- 日本大使館, ウェストハナハイ村幼稚園を供与
- 尾西在ボツワナ日本国大使が離任
- カーマ大統領, ザンビアを訪問

【経済】

- グレンコア社, シェブロン南ア資産を取得へ
- ボツワナ投資貿易センター, ワン・ストップ・サービス・センターを設立
- ボツワナ中央銀行による基準割引率・基準貸付利率の引き下げ

【文化】

- 第4回 都筑・ボツワナ交流児童画展が開会

【内政】

○ ボツワナ, 独立51周年を祝福

(9月30日, 独立51周年記念式典が首都ハボロネで開催され), カーマ大統領はスピーチの中で, ボツワナの51年の歩みを称えると共に, ボツワナは次の50年に向けた構想を描く時節にあり, 昨年発表されたビジョン2036年はボツワナの基礎となる価値と原則を示している旨述べた。(3日: デイリー・ニュース紙, モニター紙)

○ ボツワナ人民党, 野党連合脱退に向け準備

野党連合「民主改革のためのアンブレラ(UDC)」に所属する野党ボツワナ人民党(BPP)の関係者は, ボツワナ議会党(BCP)が野党連合から脱退し, 野党連合内の選挙区配分が見直された場合のみ野党連合に留まる意向を語った。(10日: メヒ紙, 11日: ボツワナ・ガゼット紙)

○ マシシ副大統領, ボツワナ大学学長に就任

14日, ボツワナ大学で35回目の卒業式と, 同時にマシシ副大統領のボツワナ大学学長への就任式が開催された。マシシ副大統領はボツワナ大学の卒業生であり, 同大学の卒業生が学長となるのはこれが初めて。ボツワナ大学の初代学長にはマシーレ元大統領, 2代目学長にはモハエ前大統領, 3代目学長には再びマシーレ元大統領が就任していた。(16日: デイリー・ニュース

紙)

○ カーマ大統領, ボツワナ農業自然資源大学の学長に就任

カーマ大統領はボツワナ農業自然資源大学(BUAN)の学長に就任した。カーマ大統領は、就任式のスピーチの中で、今後ボツワナの農業と牧畜業を改善し、生産性の向上と商業化に努め、自国の食料安全保障に貢献する産業に育て上げたい旨述べた。(23日:デイリー・ニュース紙, モニター紙)

○ 野党連合, ボツワナ民主運動党に党大会のやり直しを要求

野党連合「民主改革のためのアンブレラ(UDC)」は、党分裂の危機にあるボツワナ民主運動党(BMD)に対して、今後3ヶ月以内に騒動となった7月の党大会をやり直すよう求め、さもなければ同党に懲戒処分を下すと忠告した。ピラーネBMD代表は、UDCにBMDの運営を指図する権利はないと主張している。(27日:メヒ紙)

○ 新党「革新連合」の誕生

29日、ハオラツェ元ボツワナ民主運動党(BMD)代表は、BMDから分離独立し、新党「革新連合」(AP)を結成した。新党の党員は56名、代表はンダバ・ハオラツェ、副代表はウィンター・モロツイが務め、党のシンボルカラーは紫となる旨発表された。(30日:デイリー・ニュース紙, モニター紙)

【外交】

○ EU, ボツワナの死刑制度に挑戦

EU大使館は、10日の世界死刑廃止デーに合わせ、ボツワナ人権センターと共にボツワナにおける死刑制度廃止を目的とした啓蒙活動を行う。EU大使館の報道官は、常に最終目標は死刑の廃止であるが、死刑制度を存在させる国においては、偏見や差別なく、司法へのアクセスをすべての国民に保証することも重要である旨述べた。(1日:サンデー・スタンダード紙)

○ WHO アフリカ地域事務局長, ボツワナを訪問

モエティ WHO アフリカ地域事務局長(ボツワナ出身)は3日から5日までボツワナを訪問する。同事務局長はマシシ副大統領, ベンソン=モイトイ外務国際協力大臣, マカト保健大臣と面談する他、各医療施設を視察する予定。(3日:モニター紙)

○ ボツワナと中国, 関係修復を誓う

ザオ中国大使は、第68回目の国慶節を祝う式典において、中国企業が請け負ったあるプロジェクトの品質に関する問題が二国間関係の促進にとって大きな問題となっていた旨発言した。また、同大使は二国間関係の促進には課題があるものの、相互利益を得る形でお互いへの敬意をもって双方の違いを乗り越えることが重要である旨発言した。同式典に主賓として出席したベンソン=

モイトイ外相は、誠実さとお互いへの敬意によって困難を克服することができる旨発言した。(3日:モニター紙)

○ ムガベ・ジンバブエ大統領, カーマ大統領を批判

ムガベ・ジンバブエ大統領は、南アフリカとの二国間協議委員会に出席した際に、ボツワナのベンソン＝モイトイ外務国際協力大臣の AU 委員長選における落選は、カーマ大統領が同大臣を支援しなかったためだと同大統領を非難した。カーマ大統領は、AU 委員長選挙が行われた1月の AU 総会に首席せず、選挙ロビー活動を怠ったと野党から批判を浴びていた。(6日:メヒ紙)

○ カーマ大統領, マルタ共和国を訪問

カーマ大統領は、マルタ共和国を3日間訪問しブレカ・マルタ大統領と会談した。本訪問では2005年より続く二国間関係の強化の他、投資、貿易、観光、青少年の能力向上、サイバー犯罪対策等における協力等について協議された。本外遊にはベンソン＝モイトイ外務国際協力大臣、オロペン青少年地位向上・スポーツ文化開発大臣、モカイラ運輸通信大臣が随行。なお、カーマ大統領は帰国の途中に米ワシントンに立ち寄り、自然保護関連の国際会議に出席した。(3日, 6日, 9日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ政府, ムガベ大統領の発言に遺憾の意を表明

ボツワナ外務国際協力省は、ムガベ・ジンバブエ大統領による「ベンソン＝モイトイ外務国際協力大臣の AU 委員長選における落選は、カーマ大統領の支援がなかったため」との発言に対し、ムガベ大統領の高齢に鑑み、同発言に対するコメントは控える旨のプレスリリースを発した。(9日:デイリー・ニュース紙)

○ 国連環境計画事務局長, ボツワナを訪問

ソルヘイム国連環境計画(UNEP)事務局長はボツワナを訪問し、カーマ環境・天然資源保護・観光大臣との会談でボツワナの自然保護分野における活動を賞賛した。カーマ大臣は、同事務局長のボツワナ訪問はマウンで開催される「アフリカにおける持続可能な開発のためのハボロネ宣言」に係る会議に出席するためのもので、国連の支援によりボツワナの環境保護への取り組みが促進されることを期待する旨述べた。(11日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ, スペイン・カタルーニャにおける片務的独立宣言を非難

ボツワナ政府は、スペインのカタルーニャによる片務的独立宣言への違法な署名に対し遺憾の意を表明した。プレスリリースは、国家の統治と領土に関わる権利は、他国のみならず自国民からも尊重されねばならず、カタルーニャはスペイン国家の一部として固有の言語と文化を保持しスペイン憲法下で広範にわたる自治権を享受してきており、ボツワナは今回のような交渉と同意なき独立は支持しないと強調した。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ **ボツワナ政府、ソマリアにおけるテロ攻撃を非難**

ボツワナ政府は、国際の平和と安全を脅かすテロの脅威に深い懸念を示し、先般、ソマリアのモガディシュで発生したテロ攻撃は多くの罪なき人々の生命と財産を奪ったとしてこれを最も強い言葉で非難した。プレスリリースは、いかなるテロ攻撃も、その動機を問わず、正当化することは出来ず犯罪であり、引き続きこの世界の脅威に立ち向かうため一致団結することが重要である旨強調した。(18日:デイリー・ニュース紙)

○ **新フィンランド大使、新マリ大使の信任状捧呈**

新フィンランド大使及び新マリ大使はカーマ大統領に信任状を捧呈した。インタビューに対し、フィンランド大使は、フィンランドは高品質な地質探査技術を有しており、この分野においてボツワナと協力することができる旨述べ、また、マリ大使は、マリ国内の紛争におけるボツワナの支援を重要視している旨述べた。各大使は南アに駐在する。(18日:デイリー・ニュース紙)

○ **SADC 平和維持軍のレソト内紛への介入、期限迫る**

マホティ・レソト外務・国際関係大臣は、南ア、ナミビア、アンゴラ、スワジランドの4カ国によるSADC 平和維持軍が11月1日までにレソト入りすると発言した。これまでレソト政府は、SADC 事務局が提案する調査団のレソトへの追加派遣に反対しており、SADC 軍のレソト内紛への介入が遅れていた。(24日:メヒ紙)

○ **新マラウイ高等弁務官、新アルゼンチン大使、新チュニジア大使が信任状捧呈**

新マラウイ高等弁務官、新アルゼンチン大使及び新チュニジア大使はカーマ大統領を往訪し信任状を捧呈した。インタビューに対し、アルゼンチン大使は、牛肉産業を含む牧畜業においてアルゼンチンの技術をボツワナに移転することで生産性を高めることが出来る旨述べた。各大使は南アに駐在する。(24日:デイリー・ニュース紙)

○ **日本大使館、ウェストハナハイ村幼稚園を供与**

19日、平成27年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「ハンツイ地区ウエストハナハイ村幼稚園建設計画」の引き渡し式が開催された。引き渡し式に出席した尾西大使は、スピーチの中で、幼稚園の建設が、園児たちのより良い学業成果に寄与するとともに、園児たちの将来の可能性を広げることを期待する旨述べた。(24日:デイリー・ニュース紙)

○ **尾西在ボツワナ日本国大使が離任**

25日、外務国際協力省の主催で近く離任する尾西大使の送別式典が開催された。式典に出席したモラレ外務国際協力大臣代行兼大統領府・統治・公共政策担当大臣は、スピーチの中で同大使の働きぶりを称えた。また、尾西大使は、在任中にボツワナの独立50周年と日・ボツワナの外

交関係樹立50周年を祝うことができた喜びを語った。(26日:デイリー・ニュース紙)

○ **カーマ大統領, ザンビアを訪問**

カーマ大統領はザンビアの独立53周年記念式典に出席するため首都ルサカを訪れた。カーマ大統領は、式典のスピーチの中で、両国は SADC 地域における平和の道標としての役割を果たしている旨述べた。また、ルング・ザンビア大統領は、両国間で建設中のカズングラ橋が完成すれば二国間の貿易は増進されるはずだと述べた。ザンビア大統領は9月30日に行われたボツワナの独立51周年式典に出席していた。(25日, 26日, 27日:デイリー・ニュース紙)

○ **新パレスチナ大使, 新タンザニア高等弁務官, 新リトアニア大使の信任状捧呈**

新パレスチナ大使, 新タンザニア高等弁務官及び新リトアニア大使はカーマ大統領を往訪し信任状を捧呈した。パレスチナ大使は(ボツワナが3月にパレスチナとの外交関係を樹立して以降)初の大使となる。インタビューに対し、タンザニア高等弁務官はボツワナにタンザニアの投資を呼び込みたい旨語った。パレスチナ大使はジンバブエに、その他の大使, 高等弁務官は南アに駐在する。(27日:デイリー・ニュース紙)

○ **新コロンビア大使, 新モーリシャス高等弁務官の信任状捧呈**

新コロンビア大使及び新モーリシャス大使はカーマ大統領を往訪し信任状を捧呈した。インタビューに対し、コロンビア大使は、両国間における査証免除は観光, ビジネス, 貿易を促進する上で重要である旨述べた。各大使は南アに駐在する。(31日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ **ボツワナの主要経済指標**

1) **経済成長率(出典:ボツワナ統計局)**

2017年第2四半期の経済成長率は、前期比1.9%(2017年第1四半期の経済成長率は、前期比0.2%)。

2) **インフレ率(出典:ボツワナ銀行)**

2017年9月は3.2%(2017年8月は3.4%)。

3) **為替レート(出典:First National Bank of Botswana)**

2017年10月31日

1プラ=0.093米ドル

1プラ=1.282南ア・ランド

1プラ=10.57円

2017年9月29日
1プラ=0.094米ドル
1プラ=1.260南ア・ランド
1プラ=10.73円

○ ダイヤモンド産業

1) 選鉱くずがレタカネ鉱山を再生

2014年に鉱山寿命を迎えたレタカネ鉱山では、現在、21億プラの費用で選鉱くず処理工場を開始するための準備が進められている。同工場の完成により、年間360万トンの選鉱くずを処理し、80万カラットのダイヤモンドを生産することが可能になる見込み。(17日:メヒ紙)

2) デビアス社、2015年12月以来最も少ないダイヤモンド原石売上を記録

デビアス社は2017年第8回目におけるダイヤモンド原石売上が3億7000万ドルを記録したと発表した。同売上は昨年同時期の売上4億9400万ドルを下回り、2015年12月以来最も少ない額となったが、デビアス社CEOによると、同売上の落ち込みは、宗教に係る休日のためにイスラエル及びインドの研磨工場が閉まっていたことによるものであり、予想通りである由。(21日:ウイークエンド・ポスト紙)

3) デブスワナ社のダイヤモンド原石生産33%上昇

デブスワナ社(当館注:ボツワナ政府とデビアス社の合弁企業)の第3四半期におけるダイヤモンド原石生産は610万カラットとなり、昨年同時期に比べ33%上昇した。デブスワナ社は今年初めに今年1年間のダイヤモンド原石生産予測を2050万カラットと見込んでいたが、ダイヤモンドの需要の高まりを受け、2200万カラットに修正した。(27日:メヒ紙, 28日:ウイークエンド・ポスト紙)

○ エネルギー・資源

1) レタカネ・ウラン鉱山プロジェクトの延期

ボツワナで発のウラン鉱山の開発者である A-Cap Resources 社(豪)は、国際市場におけるウラン価格の回復が遅いことからレタカネ・ウラン鉱山プロジェクトの開始を二年間延期する旨発表した。同社は2016年9月に22年間の鉱業許可を取得し、当初の予定では2018年から同プロジェクトを開始することを見込んでいたが、今次延期により、プロジェクトの開始は2020年となる見込み。(4日:メヒ紙, 4日:ガーディアン紙)

2) グレンコア社、シェブロン南ア資産を取得へ

資源商社グレンコア社(スイス)は、シェブロン(米)の南アとボツワナの事業の株式の75%を9億7300万ドルで取得することで合意したと発表した。取得する資産にはケープタウンにある製油所、南アとボツワナの820以上のガソリンスタンド等が含まれる。シェブロンは今年3月に中国石油化工に南ア、ボツワナの資産を9億7000万ドルで売却することで合意したと発表していたが、現地投資家らが先買権を行使し、同取引は行き詰まっていた。(10日:メヒ紙)

3) ボツワナ電力公社, 太陽光発電プロジェクトに20億プラを融資申請予定

ボツワナ電力公社(BPC)は, 太陽光発電所建設に必要な2億ドル(20億プラ)の融資に係る申請を気候変動基金(Climate Change Fund)に対して来年行う予定。ボツワナ政府は7年以内に再生可能エネルギーの割合を25%までに引き上げるパリ協定に署名しており, 2025年までに250MWの太陽光発電所を建設する必要がある。(31日:メヒ紙, 31日:デイリー・ニュース紙)

○ フランス・ボツワナ・ビジネススクラブの設立

フランス大使公邸で, フランス・ボツワナ・ビジネススクラブの設立に係るレセプションが開催された。同式典の中で, 仏大使は仏企業とのパートナーに関心があるボツワナの企業家や個人に対して, フランス・ボツワナ・ビジネススクラブに相談するよう促した。(20日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ投資貿易センター, ワン・ストップ・サービス・センターを設立

ボツワナ投資貿易センターは, 政府関係省庁及び関係機関と協力して, ワン・ストップ・サービス・センター(BOSSC)を設立した。同設立に係る式典の中でセレツェ投資・通商産業大臣は, 「BOSSCはビジネスに係る許可の発行に係る事務的な手続きを簡素化して短期間で行い, ボツワナでビジネスを始める投資家が直面している障害を取り除く」旨発言した。(30日:デイリー・ニュース紙)

○ ボツワナ中央銀行による基準割引率・基準貸付利率の引き下げ

24日, ボツワナ中央銀行は基準割引率・基準貸付利率を5.5%から過去最低の5.0%に引き下げると発表した。同発表によると, ボツワナ中央銀行の金融政策委員会は, 中期的にインフレ率が目標値である3~6%以内に収まる見込みであり, 価格の安定に係る見通しが良好であることから今次基準割引率・基準貸付利率の引き下げを決定した。(25日:メヒ紙, 26日:デイリー・ニュース紙)

○ S&P社のボツワナ国債格付の見直し改善

31日, ボツワナ中央銀行は大手格付企業Standard & Poor's (S&P)社がボツワナ国債格付の見直しを「ネガティブ(negative)」から「安定的(stable)」に改めた旨発表した。なお, 国債格付の評価は変わらず, 自国通貨建て, 外貨建て共に長期国債はA-, 短期国債はA-2となった。(31日:ボツワナ中央銀行報道発表)

【文化】

○ 第4回 都筑・ボツワナ交流児童画展が開会

ベンテマ小学校において, 交流児童画展が開会し, 横浜市立茅ヶ崎小学校の児童画119展および同校の学校生活の写真パネルが展示された。23日の開会式に出席した尾西大使はスピーチの中で, 今年も交流児童画展を開催できたことに対する謝意を述べると共に, 幼い頃から友好

関係を育むことは重要である旨発言した。展示物は同校での展示終了後、タポン・ヴィジュアル・アート・センターで展示された後、ベンテマ小学校の児童が描いた作品と共に日本に送られ、12月から2018年3月にかけて横浜で展示される予定。(26日:デイリー・ニュース紙)

○ 尾西大使, 離任インタビューにて3年間の任期を振り返る

尾西大使の離任インタビュー記事が2回にわたって掲載され、同インタビューでは3年1ヶ月のボツワナ大使としての任期中、ボツワナ独立および日・ボツワナ外交関係樹立50周年記念の各種イベントを行ったことと、ボツワナ投資貿易センター(BITC)との共催で日本企業に対する「ボツワナ投資環境視察ミッション」を実施し、世界中に進出する日系企業およびローカル企業が同ミッションに参加したことが特に印象に残った出来事であったと述べた。(20日, 27日:ガーディアン紙)